

個人的選好が存在する場合の選択行動実験

Selective Behavioral Experiment in Conditions with Personal Preference.

1W143108-4 平井 淳也 指導教員 渡邊 克巳 教授

HIRAI Junya

Prof. WATANABE Katsumi

概要：本研究は、人が物の選択を行う時どのような思考プロセスを経ているのかを検討するために行われた。実際の選択においてはほとんどの場合どちらかを好む個人的な選好がある。その条件下において、先行研究によって実験室条件で存在を示された希少性効果、多数効果、デフォルト戦略（遠慮効果）がどの程度効果を表すかについて実際にきのこの山とたけのこの里を配布して実験を行った。その結果、多数効果とデフォルト戦略が有意に効果を示し、中でもデフォルト戦略が強く効果を示した。希少性効果については影響がほとんど見られなかった。その後質問紙調査においてデフォルト戦略を誘引する性格特性を調査したところ社会的スキルの項目のみが該当することが明らかになった。

キーワード：選好，決定，多数，遠慮

Keywords：preference, decision, plurality, refrain

1. 実験背景

人は物の選択を行うとき、何を基準に選んでいるのか。例えば職場や学校などでお土産を回された時、私たちが選択したものは本当に自分が選びたかったものなのか。選択するものが二種類であったとしても、どちらかを選択するまでには様々な思考を巡らせている可能性がある。先行研究では、希少性効果

(Yamagishi, Hashimoto, & Schug, 2008), 多数効果 (奥田, 2003)やデフォルト戦略 (Hashimoto, Li, & Yamagishi, 2010)などが働くと考えられている。しかしながら、希少性効果と多数効果は対極に位置する効果であり、私は今回の実験を通じて実際の選択における意思決定プロセスを明らかにしたいと考えた。

2. 実験1 個人的選好の調査

2.1. 実験方法

参加者：参加者は、インターネット上に掲載した募集に応募してきた大学生および大学院生 100名であった（男性 46名、女性 54名）。

手続き：3時間弱に渡って複数の心理学実験を遂行した参加者を別室に呼び、実験参加のお礼としてきのこの山とたけのこの里が一個ずつ入っている箱を提示した。参加者はその中から一つだけを選択することが出来た。なお、本実験とは別途で実験参加の報酬として 3,000円が支給されることは事前に説明がされている。

2.2. 実験結果

28人 (28%)がきのこの山を選択し、72人 (72%)がたけのこの里を選択した。二項検定を行った結果有意にたけのこの里のほうが多く選択された ($p < .01$)。

3. 実験2 多数効果、希少性効果の検討

3.1. 実験方法

参加者：参加者は大学生および大学院生 101名であった（男性 43名、女性 58名）。

手続き：参加者の条件と文言は、提示する箱にきのこの山 2個とたけのこの里 1個が入っていること以外、実験1と同じであった。

3.2. 実験結果

48人 (48%)がきのこの山を選択し、53人 (52%)がたけのこの里を選択した。カイ二乗検定の結果、本実験とチャンスレベルの間に有意な差が存在した ($\chi^2(1) = 6.71, p < .01$)。次に、参加者が個人的選好のみで選択した場合は実験1と変わらない結果になるはずであるが、実験1と実験2の選択にも有意な差が存在した ($\chi^2(1) = 7.34, p < .01$)。よって個人的選好は存在するものの、多数効果が有意に働いたということが明らかになった。

4. 実験3 デフォルト戦略の検討

4.1. 実験方法

参加者：参加者は大学生および大学院生 200名であった（男

性 107 名, 女性 93 名)。

手続き: 本実験では参加者を同時に 2 名別室に呼び, きのこの山 2 個とたけのこの里 1 個が入った箱を提示した。2 名のペアはその場で作成した。続いて実験者に近い人から順番に選択を行うように指示した。後に選択する人は先に選択する人の選択を観察することが出来た。それ以外は実験 2 と同様であった。

4.2. 実験結果

先に選択した 100 名について, 65 名 (65%)がきのこの山を選択し, 35 名 (35%)がたけのこの里を選択した。本実験の先に選択した人と実験 2 を比較すると, 有意な差が存在した ($\chi^2(1)=5.55, p<.05$)。よってデフォルト戦略の効果が示された。

5. 実験 4 質問紙調査

5.1. 実験方法

参加者: 回答者は心理学系の授業を履修した早稲田大学の 1・2 年生 221 名であり, 男女それぞれ 172 名と 49 名であった。

手続き: 本実験では実際に選択をしてもらうのではなく, 質問紙回答という形で実験を行った。質問は一人条件と二人先に選ぶ条件それぞれにおいて, お菓子が入っている個数の異なる箱から 1 個を選択するというものであった。また, 本実験では同時に自閉症スペクトラム指数 (Autism-Spectrum Quotient: 以下 AQ と表記) (若林・東條・Baron-Cohen・Wheelwright, 2004) と日本語版 Ten Item Personality Inventory (以下 TIPI-J と表記) (小塩・阿部・カトローニ, 2012) の質問紙調査も行った。

5.2. 実験結果

表 1 に選択結果を示す。本実験においてデフォルト戦略の効果は見られたが, 多数効果については見られなかった。また AQ と TIPI-J の結果だが, デフォルト戦略を取った人と取らなかった人で比較した。項目別に t 検定を行ったところ AQ の社会的スキルのみ有意な差が存在した。($t(211)=2.79, p<.01$)

表 1 各実験選択結果

条件	実験1 実験2 実験3			実験4					
	一人	一人	二人	一人条件		二人条件			
個数	K1T1	K2T1	K2T1	K1T1	K2T1	K1T2	K1T1	K2T1	K1T2
きのこ	28	48	65	74	87	70	79	165	40
たけのこ	72	53	35	147	134	151	142	56	181

K はきのこの山, T はたけのこの里の個数を指す。

6. 考察

本研究によって明らかになったことは, 個人的嗜好がある条件下においても多数効果やデフォルト戦略が働くこと, デフォルト戦略は社会的スキルがもたらすということであった。また, 本実験において希少性効果は見られなかったが, これは今回配布したものが残らないものであったこと, きのこの山とたけのこの里を食べたことがあるという経験が希少性という効果を弱めた可能性が考えられるだろう。

デフォルト戦略に関してだが, 参加者が重要視したのは次に選択する人に選択肢を残すことであり, 母集団における個人的嗜好の偏り具合を考慮するというような傾向は見られなかった。加えてこれをもたらすのは社会的スキルという性格特性のみであり, コミュニケーションや想像力, 協調性などの項目では無かった。

本実験において, 種々の効果によってきのこの山を選択確率を上昇させることが出来ることが明らかになった。ただ, 反対にこれらの効果を加味してもまだたけのこの里を選択する人も一定数は存在した。今後はこれらの人々がどういった条件であれば選択を変えるのか, 様々な研究によって検証されている仮説や効果について, その程度の検証をすべき段階にあると私は考える。こうした調査を行うことで嗜好と種々の効果の度合いが計測可能になり, 選択における意思決定プロセスを明らかにすることが出来るだろう。

7. 参考文献

- Hashimoto, H., & Li, T., & Yamagishi, T. (2010). Beliefs and preferences in cultural agents and cultural game players. *Asian Journal of Social Psychology*. DOI: 10.1111/j.1467-839X.2010.01337.x
- Yamagishi, T., Hashimoto, H., & Schug, J. (2008). Preferences versus strategies as explanations for culture-specific behavior. *Psychological Science*, 19(6), 579-584.
- 奥田秀宇. (2003). 意思決定における文脈効果: 魅力効果, 幻効果, および多数効果. *社会心理学研究*, 18(3), 147-155.
- 小塩真司, 阿部晋吾, カトローニ ビノ. (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み. *パーソナリティ研究*, 21(1), 40-52.
- 若林明雄, 東條吉邦, Baron-Cohen, S., & Wheelwright, S. (2004). 自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版の標準化. *心理学研究*, 75(1), 78-84.